

# 地球温暖化——明るさ見えず

伊狩 健

## 1. IPCC 第5次報告

昨年（2013年）9月 IPCC（気候変動に関する政府間パネル）は、地球の気候変動に関する第5次評価報告書を提出しました。2007年の第4次に次ぐ6年ぶりのものです。

主要な点は、

- ①過去100年で地球の平均気温は、0.85℃上昇した。
  - ②3,000m以深の海洋深層で水温が上昇している。
  - ③100年後の2100年には、平均気温は最大で4.8℃上昇し、海水面は0.82cm上昇する。
  - ④これらは、ほぼ確実に人間の活動に由来している。
- など、前回報告より、厳しいものになっています。

特に、海洋深層まで水温が上昇しているということについては、今後の回復の困難さを意味するものだけに深刻です。

このため早急な対策が必要と警鐘をならしました。

**\* IPCC (Intergovernmental Panel on Climate Change)**

**気候変動に関する政府間パネル：**

1988年世界気象機関と国連環境計画により設立された組織

## 2. COP19

これを受けて、11月にポーランドのワルシャワで気候変動枠組条約締約国会議（COP19）が開催されました。2020年以降の地球温暖化効果ガス（CO<sub>2</sub>など）削減の枠組みを話し合うものでしたが、相変わらず途上国と先進国との溝は埋まらず、先行きに不安を感じさせるものでした。

会期を1日延長して、ようやく2020年以降は、全ての国が参加することで合意しましたが、削減目標は各国の自主性にゆだねられることになりました。

**\* COP19 (Conference Of the Parties)**

**気候変動枠組条約締約国会議：**

1992年5月国連は気候変動枠組条約締約を採択、締約国185カ国、これに基づき95年以降毎年開催されている。

## 3. 日本ほか主要国の取り組み

日本は民主党政権下に2020年までに温室効果ガスを1990年比25%削減することを約束しました。しかし東日本大震災で、原発に30%を依存していた削減計画は達成不可能となり、今回のCOP19では削減目標を2005年比、3.8%に大きく引き下げて臨みました。90年比では3%の増加になり、削減にはむしろ逆行です。

一方、CO<sub>2</sub>最大排出国の中国、第2位の米国、EUも日本よりは大きく削減しようとし

ていますが、事態の深刻さに比べると、各国ともそれ程積極的とはいえません。

地球全体の課題になると、各国の自主性にゆだねる方式では、利害が前面に出て、解決は出来ないと言わざるをえません。

## 4. 技術面からの対策

各国の事情にとらわれずに、進められる方策として、技術開発があります。CO2 そのものを除去する技術として、日本でも「CO2 回収・貯留技術」や「人工光合成」などが進められていますが、実用化は 2030 年がめどで、まだかなり先のことです。

当面は、CO2 を出さない原発は有用です。安全性の高い、新しい原発も開発されようとしています。地球温暖化緩和には、原発にも依存せざるをえないと言えます。

## 5. 悲観せざるをえません

地球温暖化がもたらす影響については、すでに極端な気候変動が発生していますし、各方面から取り上げられていますので、敢えて言及は必要ないと思いますが、問題は猶予される時間が少ないということです。

深海の水温上昇にも見られるように、地球は一定以上の温暖化が進むと、その状態が固定化し、元に戻るのが難しいのです。今後 20~30 年が重要だという見解が多く出されています。現在の取り組み状況からは悲観せざるをえません

## 6. 前向きに取り組むを

現在の情勢は、八方塞がりです。恐らくかなり近い将来、地球温暖化によるクライシスが表面化するはずですが、そして対策への取り組みが強いられます。ですから、出来るだけ早めに先取りして備えておくべきです。そうすれば緊急事態による被害も最小限に抑えることが出来ます。

①まずは、省エネ、節電です。地球温暖化効果ガス削減に寄与することはもちろんですが、今後電力料は高くなる一方ですから、コスト削減にもなります。中小企業の省エネには、無料の省エネ診断もありますので、積極的に活用してはどうかと思います。

<b>*無料の省エネ診断</b>	全国：省エネルギーセンター
<b>実施機関</b>	東京：クール・ネット東京

②前向きには、温暖化対策につながる商品開発やサービスを創出することです。ものづくりの面では、国が重点化している温暖化対策関連技術や周辺技術の研究開発に取り組めます。昨年 9 月総合科学技術会議では環境エネルギー技術革新計画を定めています。国の重点化の方向が分かります。参考にしてください。

課題が大きいほど、ビジネスチャンスも大きいので、前向きに取り組むことが重要です。

以上